

馬獣医のよもやま話③④ 宮越大輔獣医師

宮越大輔

2006年入社

2006-2008年、

荻伏診療所勤務

2008年、

静内診療所勤務



こんにちは。静内診療所の宮越です。日高軽種馬農協の獣医師と日本軽種馬協会の獣医師が協力し、セールのリポジトリーに提出していただいたレントゲン画像について調査・研究を行いましたので、その結果について報告させていただきます。

これまで、米国および豪国において、セールに提出されたレントゲン画像に認められる所見（骨片、凹みなど）の一部が将来の出走率に影響を与えることが報告されています。つまり、ある所見が認められた1歳馬は、その所見が認められない1歳馬に比較し、競走馬として出走する可能性が低いと示されたのです。

これらの調査結果は、国や地域により異なりました。そのため、日本国内においても独自の調査が必要と考え、2007年から2009年のセクションセール、サマーセール、オータムセールに提出していただいたレントゲン画像1075頭分について解析を行い、各馬に認められたレントゲン所見と2-3歳時の出走率（2-3歳時に一回でも競馬に出走することができた率）との関連性について検討を行いました。

調査全体の2-3歳時の出走率は92.5%でした。調査全体で2-3歳時に不出走だった馬は81頭でした。

調査の結果、いくつかのレントゲン所見で所見が認められる1歳馬の出走率が所見を認めない1歳馬に比較し、統計的に有意に低いことが明らかになりました。

統計的に出走率が低くなる、これらの所見が認められた、1歳馬は27頭であり、このうち11頭が2-3歳時にレースに出走することができませんでした。

この11頭の不出走の原因について聞き取り調査を行いました。3頭については不明でしたが、残りの8頭については不出走の原因が明らかになり、いずれもレントゲン所見とは関連性の低い原因により不出走となりました。

今回の結果より、レントゲン所見と出走率だけを関連付けて調べるだけでは、誤った解釈を行ってしまう可能性があると考えられます。上記の点について十分に注意し、レントゲン所見について判断する必要があります。

レポジトリーのレントゲン撮影で認められる多くの所見が競走成績に影響を与えるのかについてはまだまだ、明らかになっていないので、所見がその後の競走成績に影響するのかについては、その馬の病歴や臨床症状を加味し、慎重に判断することが必要だと考えられます。